

トップメッセージ

受注が堅調に推移し、
前年同期比で増収増益となりました。

工場稼働率が良好に推移、コストダウンの
推進等により利益率の改善に努めました。

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年9月30日）における世界経済は、総じて緩やかに回復しました。米国では個人消費や雇用者数が増加するなど着実な回復が続き、欧州でも消費の増加、設備投資に持ち直しの動きが見られ、中国では各種政策効果もあり景気上向きの動きが見られました。国内経済については、企業収益の改善等を背景に緩やかな回復基調が続きました。

当社グループを取り巻く経営環境を見ると、スマートフォン・車載関連を中心に電子部品需要が堅調に推移しました。電子デバイスメーカー各社の設備投資も前向きな姿勢が継続しました。また、各社の次世代製品開発への取り組みは意欲的に推移しました。

こうした環境の中、当社グループでは好調な市場を捉え、既存分野への深掘りによる拡販を推進するとともに、既存技術応用分野や新規市場の開拓に注力しました。また、次世代製品に向けた電子デバイスメーカーからの依頼実験や製品開発にも継続性を持って取り組むことで事業の拡大を図ってまいりました。

生産面では、前期の受注残及び堅調な受注を背景に生産量が増加し、稼働率は良好に推移しました。また、メンテナンス性改善や社内検査の強化など、さらなる品質向上に取り組まれました。

損益面では、安定した稼働率とグループ一丸となって取り組んでいるコストダウンの推進等により利益率の改善に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、受注高は52億99百万円（前年同四半期比24.9%増）、売上高は59億75百万円（同34.4%増）となりました。

損益につきましては、経常利益9億17百万円（前年同四半期比78.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利

益7億56百万円（同77.5%増）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

真空技術応用装置事業の業績につきましては、受注は主にスマートフォンに搭載される電子部品、光学部品向けの製造装置が好調に推移しました。

受注高は43億24百万円（前年同四半期比28.2%増）、売上高は50億1百万円（同39.8%増）、セグメント利益は12億1百万円（46.3%増）となりました。

業界別の状況は以下のとおりです。

水晶デバイス業界では、周波数調整工程向けの装置を中心に受注が堅調に推移しました。

水晶デバイス装置の受注高は18億40百万円（前年同四半期比26.1%増）、売上高は19億3百万円（同69.7%増）となりました。

光学業界では、反射防止膜成膜装置を中心に、期初受注残を着実に納品し売上計上しました。一方、受注はやや足踏み状態となりました。

光学装置の受注高は11億95百万円（前年同四半期比18.2%増）、売上高は20億62百万円（同192.7%増）となりました。

電子部品業界では、自動車のリフレクター向け装置の受注など、既存技術応用分野及び新規市場の開拓に地道に取り組んできた成果が徐々にではありますが出てきました。

電子部品装置・その他装置の受注高は12億88百万円（前年同四半期比43.0%増）、売上高は10億34百万円（同40.9%減）となりました。

サービス事業につきましては、当社装置ユーザーに対する定期的な稼働状況確認など積極的に働きかけることで、装置の改造・修理や消耗品の販売に努めました。

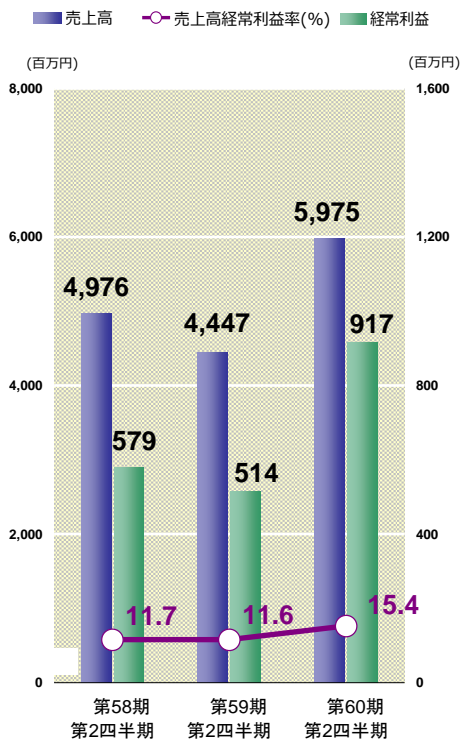
サービス事業の売上高は9億74百万円（前年同四半期比12.0%増）、セグメント利益は2億18百万円（同4.0%増）となりました。



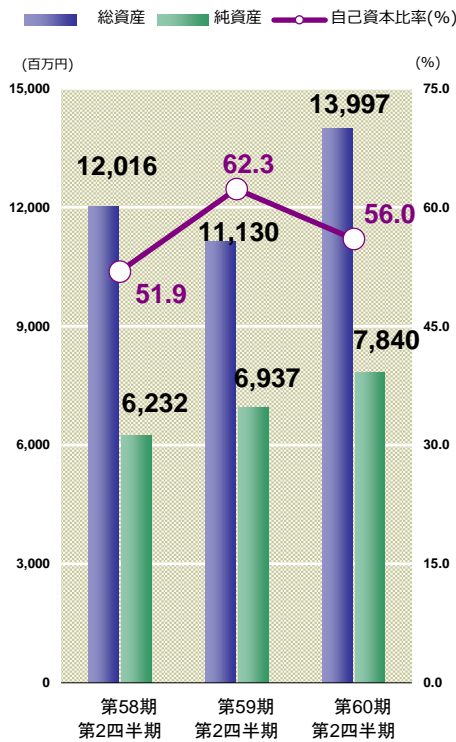
代表取締役社長

小俣 邦正
Kunimasa Omata

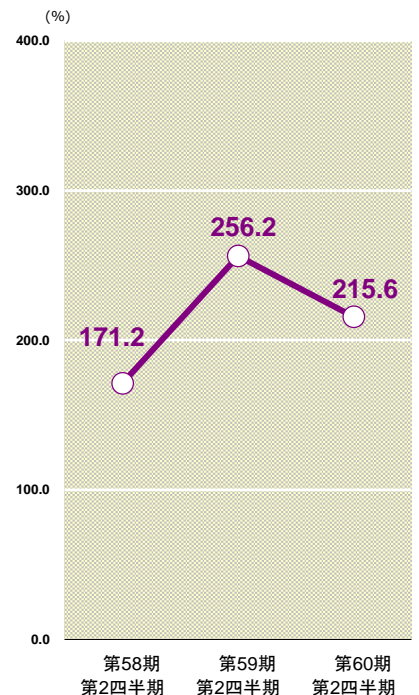
売上高・経常利益・売上高経常利益率



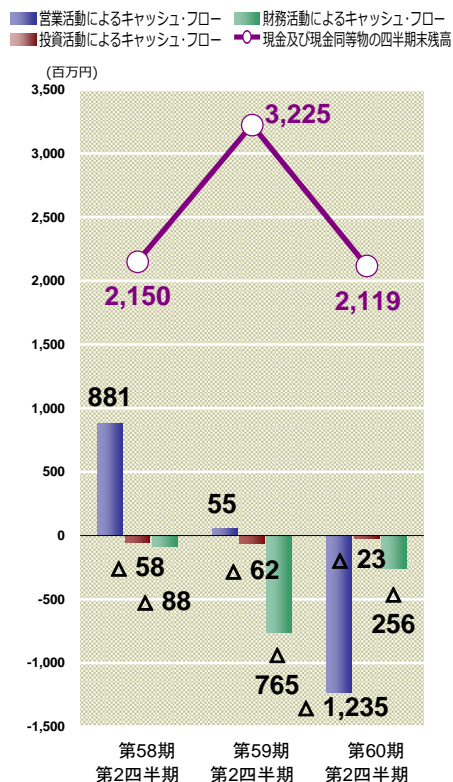
総資産・純資産・自己資本比率



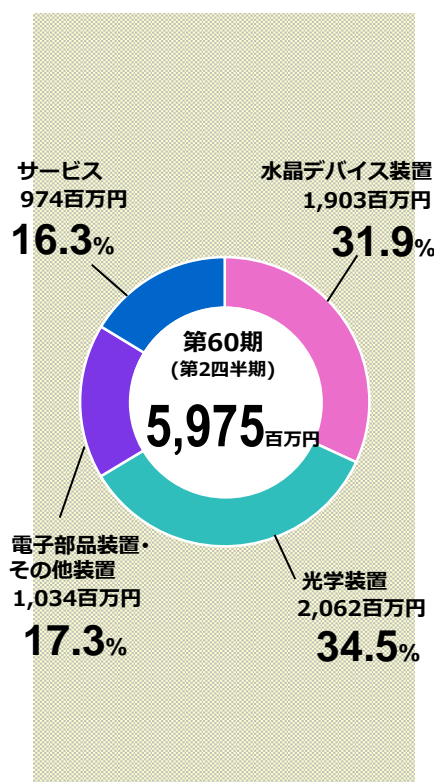
流動比率



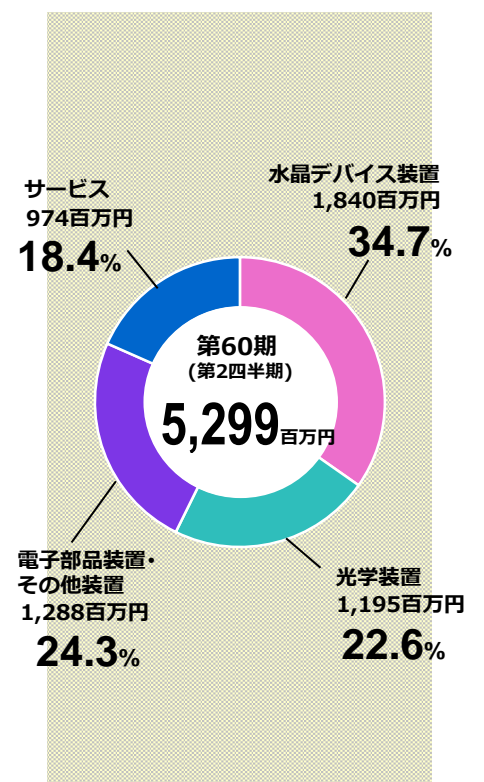
キャッシュ・フロー



品目別売上高構成比



品目別受注高構成比

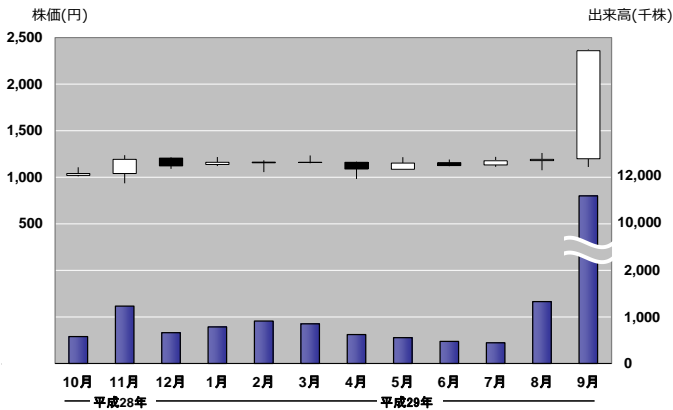


□ 株式の状況

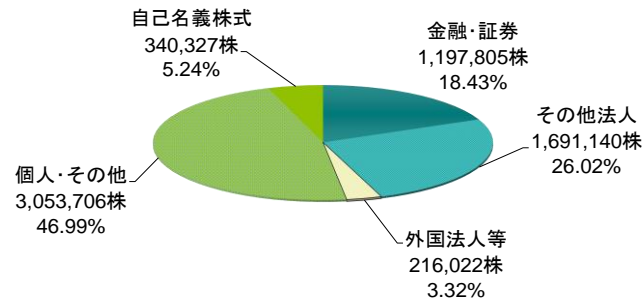
発行可能株式総数.....13,800,000株
 発行済株式の総数.....6,499,000株
 株主数.....3,305名

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|---------------|-----------|----------|
| | 持株数(株) | 議決権比率(%) |
| 株式会社アルバック | 1,329,500 | 21.59 |
| 小侯邦正 | 567,600 | 9.21 |
| 有限会社小侯興産 | 341,440 | 5.54 |
| 株式会社昭和真空 | 340,327 | — |
| 日本証券金融株式会社 | 273,900 | 4.44 |
| 昭和真空従業員持株会 | 217,052 | 3.52 |
| 株式会社SBI証券 | 211,300 | 3.43 |
| 池谷誠一 | 180,000 | 2.92 |
| 小侯佳子 | 160,000 | 2.59 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 145,000 | 2.35 |

□ 株価および売買高の推移(月次)



□ 所有者別株式状況(株式数)



□ 株主メモ

株主名簿管理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同送付先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711(通話料無料)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日

基準日 3月31日
その他必要がある時は、取締役会の決議をもって予め
公告いたします。

配当金受領株主確定日 3月31日および中間配当金の支払を行う時は9月30日

公告掲載方法 電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告
によることができない場合は日本経済新聞に掲載する。
URL <http://www.showashinku.co.jp/>

□ 会社の概要

商号 株式会社昭和真空
設立 1958年(昭和33年)
資本金 2,177,105,200円
従業員数 188名
営業種目 水晶デバイス用、光学薄膜用、電子デバイス用などの
総合的な真空関連装置並びに真空機器等
真空蒸着装置、スパッタリング装置、イオンプレーティ
ング装置、ALD装置、ドライエッチング・アッシング装置、
真空冶金(溶解、熱処理、焼結、脱ガス)装置、光学薄膜
用モニター(多色式、単色式)、IAD冷陰極イオンソース、
液晶注入装置、その他

取引金融機関 三菱東京UFJ銀行、横浜銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、
八千代銀行、山梨中央銀行、城南信用金庫

□ 事業所

本社・相模原工場
 〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名3062番地10
 TEL. 042-764-0321 / FAX. 042-764-0329

大野台 パーツセンター
 〒252-0331 神奈川県相模原市南区大野台二丁目27番2号

□ 役員

| | | | |
|-----------|-------|-------|-------|
| 代表取締役社長 | 小侯 邦正 | 社外取締役 | 末代 政輔 |
| 取締役執行役員常務 | 市川 正 | 常勤監査役 | 村木由之亮 |
| 取締役執行役員 | 高橋 理 | 社外監査役 | 千葉 睿一 |
| 取締役執行役員 | 久島 博美 | 社外監査役 | 高橋 誠一 |
| 取締役執行役員 | 田中 彰一 | | |

□ グループ会社および関係会社

[グループ会社]

昭和真空機械(上海)有限公司
 ・ 所在 中国上海市
 ・ 主な事業内容 当社装置の生産

昭和真空機械貿易(上海)有限公司
 ・ 所在 中国上海市
 ・ 主な事業内容 当社装置・部品の販売、
サービス・メンテナンス

株式会社エフ・イー・シー

・ 所在 埼玉県狭山市
 ・ 主な事業内容 マグトラン(歯のない歯車)の製造・販売

[関係会社]

Sansei-Showa Co., Ltd. USA
 ・ 所在 米国オハイオ州



□ IRカレンダー

| | |
|--------------------|-------------------------|
| 11月 第60期 第2四半期決算発表 | 6月 第60回 定時株主総会 経営報告会 |
| 2月 第60期 第3四半期決算発表 | 有価証券報告書提出 |
| 3月 31日 第60期 決算日 | |
| 5月 第60期 決算発表 | 8月 第61期 第1四半期決算発表 |
| | 9月 30日 第61期 第2四半期 決算日 |